

## 編集後記

2023年2月6日にトルコ・シリア地震が発生し、5万人以上の尊い命が失われた。現在進行中の新型コロナウイルスは、この3年の間に世界全体で約680万人の命を奪った。同じく現在進行中のロシアによるウクライナへの軍事侵攻も、正確な数字こそ不明であるが、多くの尊い命を既に奪い、そして日々奪っている。このように、世界中で日々、本来失われる必要のない命が失われて行く悲しい現実には、出口の見えない新型コロナウイルスとの「共存」への模索が、不確実性という影を落としている。

このような状況下で、研究者ができることは「謎」を解き明かすことである。「なぜ」それが起きているかを理解できれば、どのようにそれに対処すれば良いかが分かるからである。例えば新型コロナウイルスの場合、マスクの着用や換気などが感染対策に有効であると分かり、そうした知見が私たちの命を守っている。社会科学に属する経済学と経営学の役割は、ワクチンのように「目に見える」形ではなく、社会の動きへの理解を深めるといった「目に見えない」形で、現実の諸問題を解決することを以って人類の幸福に資することにある。

本号には、新型コロナウイルスに関する経済学及び経営学的考察を行った論文が含まれており「アフターコロナ」を見据えた画期的な結果が示されている。また、コロナ禍にあるからといって、全ての論文が新型コロナウイルスに関するものでなければならぬということはなく、本号では社会科教育、プロダクトデザイン、付加価値分析といった多様な観点から「謎」を解き明かす試みがなされている。こうした私たちの研究成果は、影を落とす不確実性を打ち破り、将来への希望の光を見出すものである。本号の編集担当として、自信を持って世へ送り出したい。

ただし「謎」を解き明かすことは容易ではない。Brian Greeneの*The Fabric of the Cosmos*（第16章）には“…nothing comes easily. Nature does not give up her secrets lightly.”とある。この一文を読み返す度、私は社会科学の難しさと楽しさを思い出す。「謎」がなければ社会科学は存在しえない。しかし、簡単に解けない「謎」がある限り、その謎を解き明かすべく、社会科学は存在し続ける。この一見「矛盾」とも思える事実にて改めて研究の楽しさを感じると共に、早くも次号に期待し、筆を置く次第である。

(2023年2月 坪井美都紀)

## 和光経済 第55巻第3号

2023年3月17日 印刷

2023年3月24日 発行

発行者 清水 雅 貴

制作 八千代 出版

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-2-13

発行所 和光大学社会経済研究所

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘 5-1-1